

保護者各位

子宝保育園園長

保護者の皆様にご理解いただきたい大切なこと（幼児期を迎えるにあたり）

子宝保育園は幼保連携型認定こども園に移行し、乳児期から就学前まで一貫した保育を行うことができるようになりました。その為、低年齢児期から幼児期に移行する時期の保育をより一層大切にしていきたいと考えます。しかし、国が定める配置基準では2歳児まで6人の子どもに対し1人の保育教諭は、3歳児では20人の子どもに対し1人になります。その為、保護者の皆様にもお子様が幼児期を迎えるにあたり、改めて以下の事を意識していただき、保育園と一緒に子ども達の成長を見守っていただきたいと思います。

・早寝早起き

早寝早起きができるように、「〇時になったら寝る時間」、「〇時にはみがきをしよう」というような具合で、時間を区切って物事を進めて行くようにし、その時間になると眠くなるような習慣づけをしましょう。また、保育園ではトントンしながらの寝かしつけは幼児では行いません。幼児の昼寝は簡易的な休息時間とみなします。（段階的に昼寝時間はなくします）

・食事の時間

規則正しい生活を送ることでお腹がすくタイミングが整い、子どもの中で時間に沿って行動することが身につき、子どもの自主性に繋げることができます。子ども自身の自主性を育てるため、大人が口々に運ぶといった介助は段階的になくしましょう。

・排尿排便

トイレを使った後に、トイレットペーパーを使用し、おろした下着やパンツなどをちゃんと元のように戻し手を洗う一連の動作ができるように声掛けをします。「こういう時にはこうするものだ」ということを知っていると、子どもも安心できます。

・手洗いうがい

家庭でも、外から帰った時には、子どもが自分で手を洗い、うがいをし、ハンカチで拭くようにしましょう。

・鼻をかめるように

個人差もありますが、だいたい3歳以上なら練習すれば自分で鼻をかむことができます。鼻がきれいになって気持ちが良い事を伝えながら、まず、親がお手本を見せてあげることが効果的かもしれません。保育園では自分で鼻をかむことができるよう毎日ポケットにティッシュを入れて登園してください。

・衣類の着脱

幼児期になると、自分自身で衣服の着脱や衣類の始末ができるようになります。ご家庭でも遊びやお手伝いの中に取り入れながら自分で行う事の気持ちよさ、楽しさを伝え、子ども自身が集団生活で困ることがないように少しずつ身につけてください。

・テレビ、インターネット動画等の視聴について

幼児期の子どもは善悪の区別や判断力に未熟な部分があります。テレビや動画等で暴力的なシーンを視聴すると、カッコよいと感じ真似をしたくなることもあります。それがエスカレートし友達に暴力的に接してしまうこともあります。アニメなど一見すると子ども向けに見えるものでも、過度に子どもの興味を引くような作品もあります。幼児の子ども達には好ましくないテレビ等のご家庭での視聴の際は、家族で話し合いながら視聴するなど子どもたちの情操面に配慮していただきたいと思います。

・挨拶・意思表示

集団の中での自己主張は、自己防衛のためにも絶対に必要なことです。特に、「悲しい気持ち」は自分の身を守るためには大切なことです。まずは保護者が見本を見せて、「今が悲しい気持ち（もしくは嫌な気持ち）だった」と伝えてみてください。子どもがそんな気持ちであろう時にも声を掛け、「気持ち」に注意を向けさせるのもよいでしょう。

最初は1人でできなくても、周りの大人のかや友だちの影響などでだんだんできるようになります。できるようになったことでも、その日の環境でやらなかったりします。子どもの気持ちに寄り添いながら、個々の子どものペースを大切にしつつ、大人が見通しをもって接することが大切です。